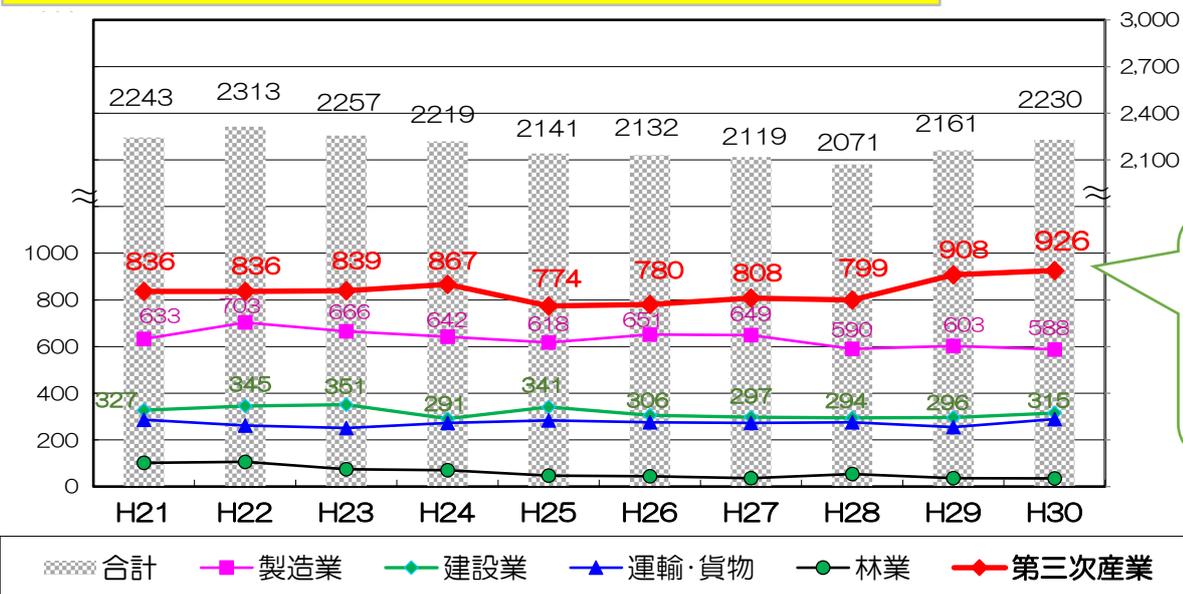




第三次産業における労働災害の現状 (三重労働局)

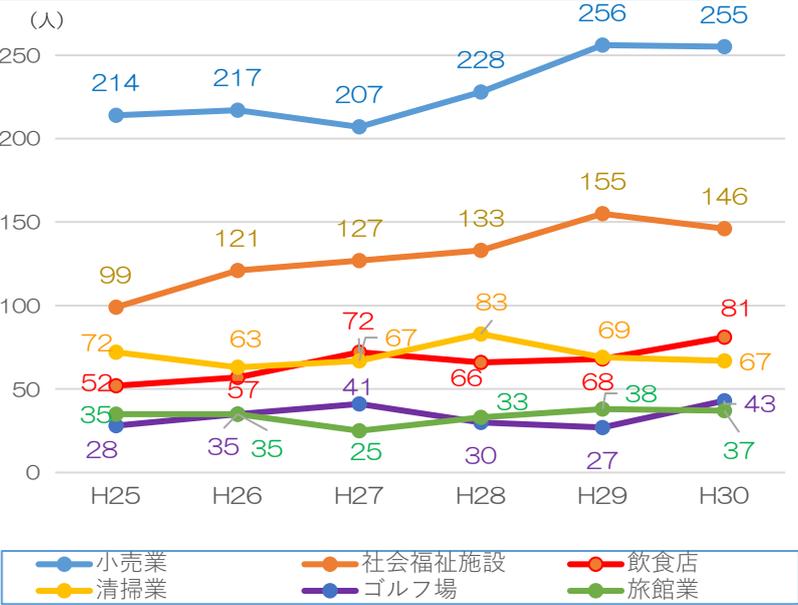
～労働災害の防止に向けた取組を推進しましょう～

業種別 死傷災害発生状況の推移 (休業4日以上死傷者)

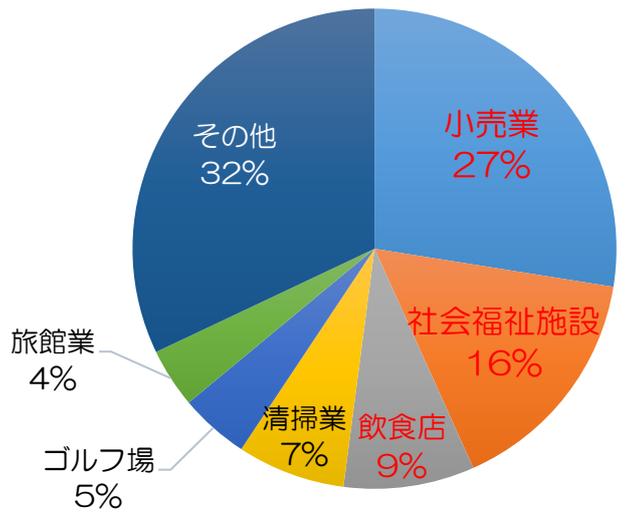


業種別に見ると、第三次産業が最も多くを占め、近年大幅に増加している。

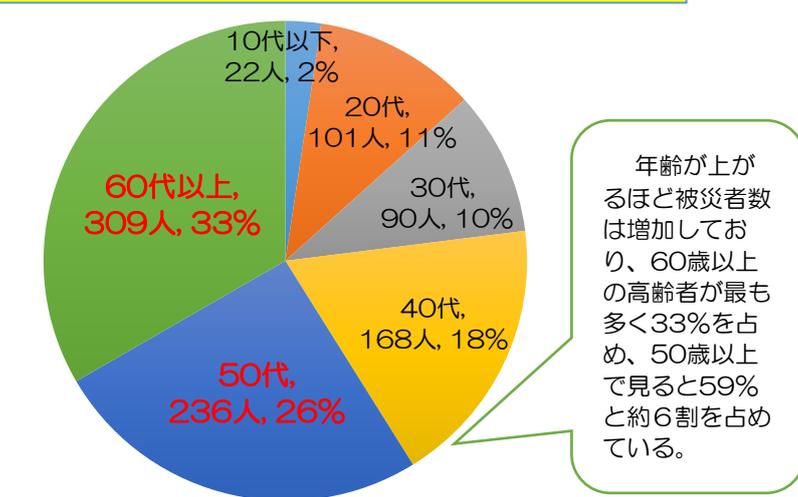
第三次産業の主な業種別死傷災害の推移



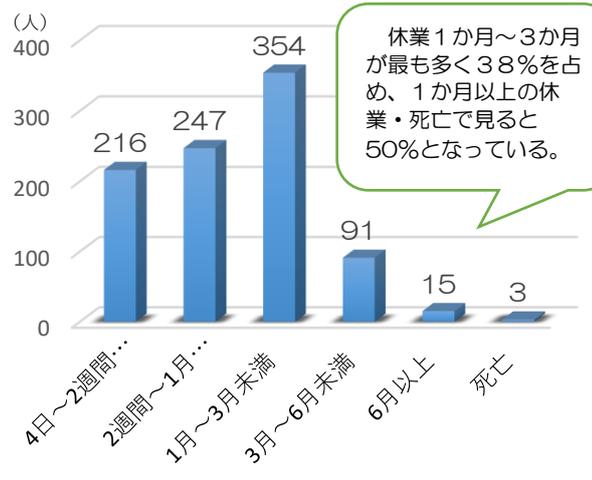
平成30年 第三次産業 主な業種別死傷災害



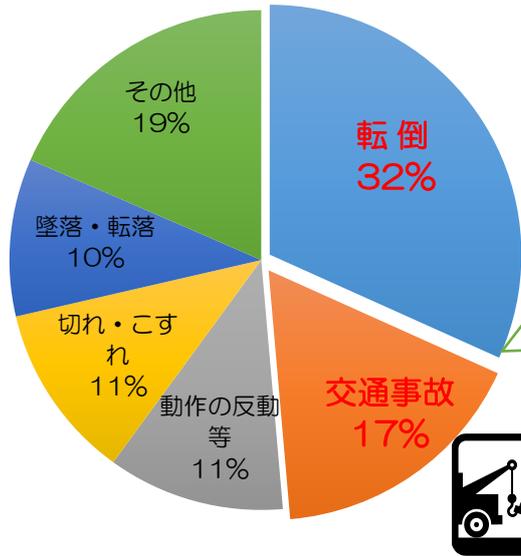
平成30年 年齢別死傷災害【第三次産業業】



平成30年 被災程度別死傷災害【第三次産業業】



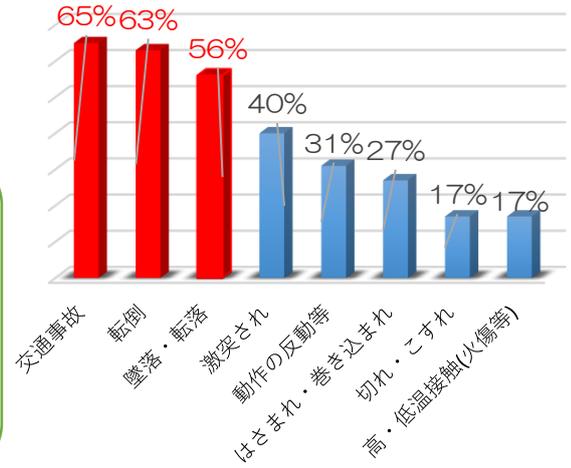
平成30年 事故の型別死傷災害【小売業】



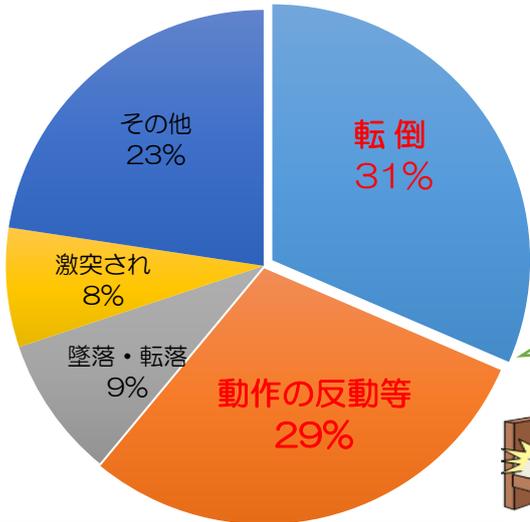
転倒災害が最も多く、次いで交通事故（交通労働災害）も多くを占めている。この交通事故の約80%が新聞販売業で発生している。



平成30年 事故の型別重篤度 （休業1カ月以上の死傷災害）【小売業】



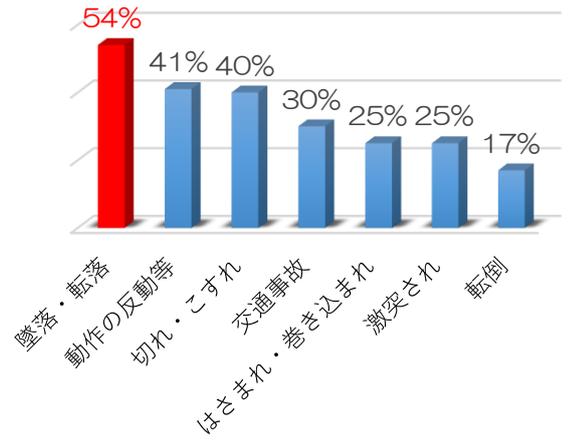
平成30年 事故の型別死傷災害【社会福祉施設】



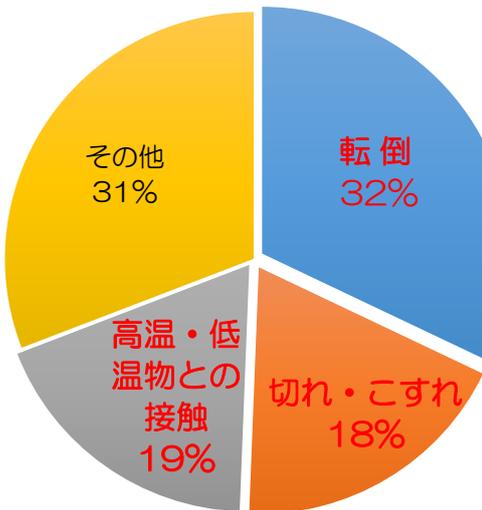
転倒災害が最も多く、次いで動作の反動等（腰痛）が多くを占めており、この二つで60%を超えている。



平成30年 事故の型別重篤度 （休業1カ月以上の死傷災害）【社会福祉施設】



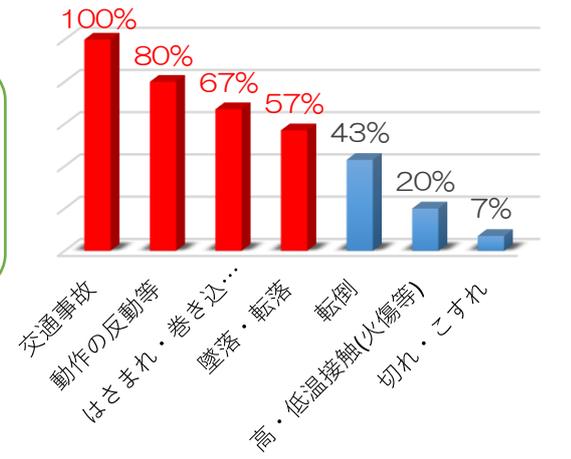
平成30年 事故の型別死傷災害【飲食店】



転倒災害が最も多く、次いで切れ・こすれ、高温・低温物との接触（やけど）の順となっており、この三つで約70%を占めている。



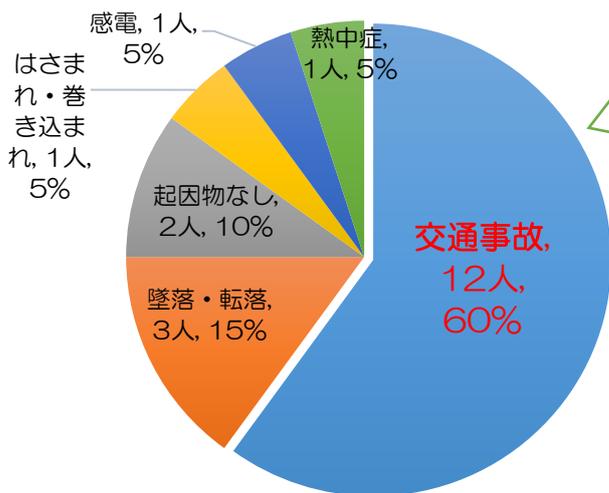
平成30年 事故の型別重篤度 （休業1カ月以上の死傷災害）【飲食店】



第三次産業における死亡災害の推移



H25~H30年 事故の型別死亡災害【第三次産業】



第三次産業の死亡者数の6割が交通事故による交通労働災害である。

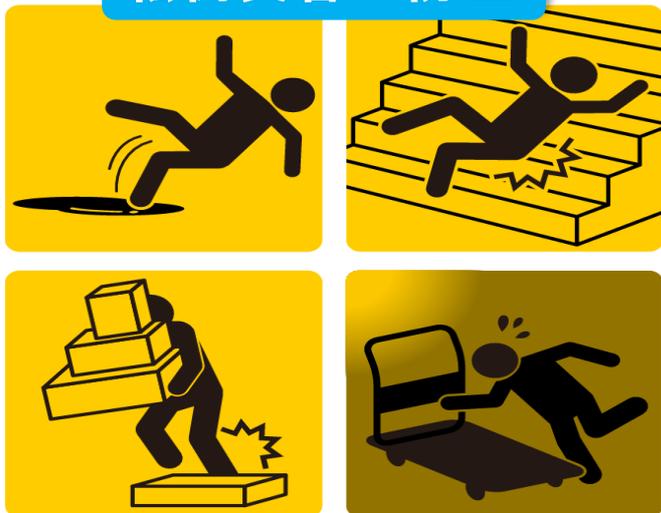


死亡災害事例

業種	事故の型	職種	年代	災害発生状況
小売業 (新聞販売業)	交通事故	配達員	60代	被災者は、バイクを運転し、新聞配達を終えて事業場に向かって走行していたところ、信号機のない交差点で乗用車と出会い頭に衝突した。
社会福祉施設	墜落・転落	運転手	70代	被災者は、デイサービスの利用者を送迎車で自宅に送るため、事業場の駐車場で準備中、送迎車の運転操作を誤り駐車場の柵を突き破って斜面下に転落した。
清掃業	墜落・転落	清掃員	30代	被災者は、施設の窓ガラス清掃作業中、屋内廊下で脚立に乗って窓の外側を清掃していたところ、窓から約9m下の地面に墜落した。

第三次産業の労働災害防止関係資料

転倒災害の防止



STOP! 転倒災害プロジェクト

厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署

ストップ転倒災害防止

検索

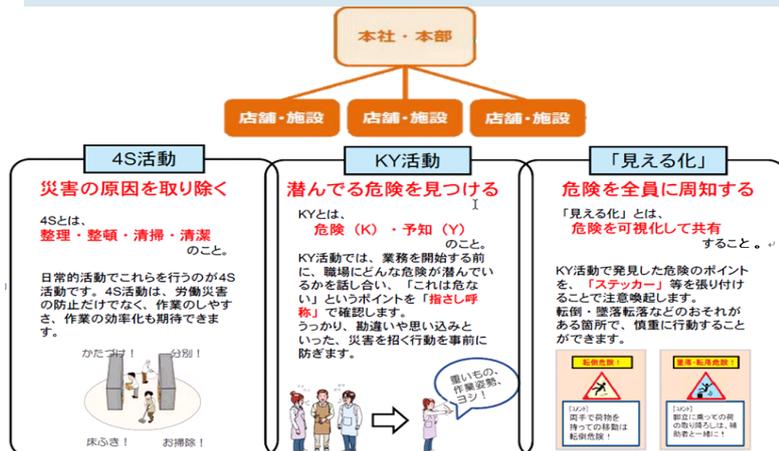
多店舗展開企業の災害防止

働く人に安全で安心な店舗・施設づくり推進運動

～ 小売業・社会福祉施設・飲食店の労働災害の減少に向けて ～

厚生労働省と中央労働災害防止協会では、小売業、社会福祉施設、飲食店において増加している労働災害の減少を図るため、「働く人に安全で安心な店舗・施設づくり推進運動」を展開しています。

これらの業種で効果的な労働災害防止対策を進めるためには、2・3ページに掲載の「チェックリストⅠ・Ⅱ」を活用し、多くの店舗を展開する**企業本社**、複数の社会福祉施設を展開する**法人本部**が**主導して**、店舗、施設の労働安全衛生活動について**全社的に取り組むことが重要**です。



働く人に安全で安心な店舗・施設づくり推進運動

検索

腰痛災害防止

「腰痛予防対策指針」に基づき予防を進めましょう



指針全文(H25.6.18付け基発0618第1号)は、厚生労働省ホームページの「法令等データベースサービス(通知検索)」または、報道発表資料(H25.6.18)をご参照ください。

職場における腰痛予防対策指針

検索

交通事故防止

交通労働災害防止のためのガイドライン

適正な労働時間等管理・走行管理

- ・走行の**開始・終了**や**経路**についての計画を作成する。
- ・早朝時間帯の走行を可能な限り避け、**十分な休憩時間、仮眠時間**を確保する。

点呼の実施

- ・**疲労、睡眠不足、飲酒**などで安全な運転ができないおそれがないか、**乗務開始前に点呼**によって確認する。

荷役作業を行わせる場合

- ・運転者の身体負荷を減少させるため、必要な用具などを備え付ける。

交通労働災害防止の意識高揚

- ・交通事故発生状況などを記載した**交通安全情報マップ**を作成する。
- ・**ポスターや標語**を掲示して、安全について常に意識させる。

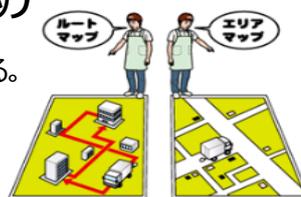
教育の実施

以下を含め、雇入れ時などや日常の**安全衛生教育**を実施する。

- ・**十分な睡眠時間の必要性**の理解
- ・**飲酒による運転への影響**の理解
- ・**交通危険予知訓練**による安全確保
- ・**交通安全情報マップ**による実態把握

その他

- ・交通労働災害防止のための**管理者**を選任し、目標を定める。
- ・運転者に対し、**健康診断や面接指導**などの健康管理を行う。
- ・**異常気象や天災**の場合、安全の確保のため**走行中止、徐行運転**や**一時待機**など、必要な指示を行う。
- ・自動車の走行前に**自動車**を点検し、必要に応じて補修を行う。



交通労働災害について、詳しくは以下のホームページをご覧ください。

■交通労働災害を防止しましょう「交通労働災害防止のためのガイドライン」のポイント

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/130912-01.html>

■職場のあんぜんサイト:交通労働災害の現状と防止対策

<http://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/kotsutaisaku1505.html>

職場の安全活動については、厚生労働省ホームページなどをご覧ください。か、三重労働局健康安全課または最寄りの労働基準監督署にお問い合わせください。

○「第三次産業における労働災害防止対策について」(安全衛生についての資料) http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen/sai/saigai_index.html

○「職場のあんぜんサイト:災害事例」(災害事例・ヒヤリハット事例) <http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000053858.html>

○「働く人に安全で安心な店舗・施設づくり運動」特設サイト <http://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/sanjisangyou.html>

第三次産業の労働災害防止対策について

検索



チャレンジ アンダー2,000みえ 休業4日以上労働災害2,000人未満を目指して! 三重労働局